

【出題形式・方針】

ほぼすべての問題を記述式で出題しており、「生物基礎」「生物」の各分野から、教科書に基づいた基礎知識と、それをもとに考察・表現する力の両方を評価することを重視している。

設問では、生物現象を支える基本的な仕組みについて、基礎知識の理解を前提に、専門的な語彙力の豊富さと図表やデータを用いてその構造や過程を論理的に説明する力を重視している。また、設問のテーマについて、各段階の関係性や制御機構を正しく把握し、自らの言葉でわかりやすく記述できるかを問う構成としている。こうした出題を通じて、受験生の理解の深さと科学的思考力、表現力を多角的に評価している。

確かな記憶力に裏付けられた知識も重要であるが、同時に、知識を活用して実験データや図表の読み取り、因果関係やしくみを論理的に記述する力も重視しており、生物現象を構造的かつ過程的に理解し、言語化する力を問う出題を行っている。受験生には、基礎の定着に加え、「なぜそうなるのか」を意識しながら、生物を深く理解し表現する姿勢が求められる。